

平成26年度

# 校内研究のまとめ

研究主題

言語活動で培う生きてはたらく国語の力の育成

～説明的な文章の指導を通して～



住田町立世田米小学校

# 目 次

I	研究主題	世小 1
II	主題設定の理由	世小 1
III	研究の目標	世小 2
IV	研究の仮説	世小 2
V	研究に対する基本的な考え方	世小 2
VI	研究の具体	世小 2
VII	研究の実際	世小 3
VIII	研究実践の成果と課題	世小 7
IX	全体の成果と課題	世小 2 5

※リーフレット

※「気持ちを表す言葉」

## I 研究主題

# 言語活動で培う生きてはたらく国語の力の育成

## ～説明的な文章の指導を通して～

### II 主題設定の理由

#### 1 今日の課題から

高度に情報化が進み、大量の情報に溢れている今、その内容を的確に読み取り、自分が必要とするものを状況に応じて選択し、活用していく能力が求められている。

その課題を受け、学習指導要領では、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた「生きる力」の育成のために、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力をバランスよく育むことが求められている。国語科については、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」ことを目標に示し、日常生活に必要な国語の能力を身に付けることができるよう改善が求められている。

本研究はこれらを踏まえ、児童の「読むこと」を基盤として、実生活で生きてはたらく、各教科の基本ともなる国語の力の育成を図っていきたいと考えるものである。

#### 2 本校の教育目標から

本校では、「やさしく（なかよく思いやりのある子ども）」「かしこく（自分で考えつくり出す子ども）」「たくましく（進んで体をきたえる子ども）」を学校教育目標に掲げ、豊かな人間性を育みながら、確かな学力を身に付けさせたいと考えている。

自分で考え、創り出す子どもを育てるために、国語科の説明的な文章における言語活動を取り入れた指導過程の改善を通し、生きてはたらく国語の力を育て、学校目標の具現化を図りたいと考える。

#### 3 児童の実態から

本校の子どもたちは、明るく元気があり、指示されたことを一生懸命実行し、落ち着いて学習している。これまで、言語や文章構成に着目した読み取りの学習を重ね、確かな読みの力を育てる研究実践を行ってきた結果、子どもたちは、自分の考えをもって課題解決に向かい、内容に即した読み取りが行えるようになってきた。

しかし、自分の考えをみんなの前で話したり、書きまとめたりすることを苦手としている子どもがまだまだ多く見られる。また、言語活動に意欲を見せ、関連する文章や図書資料を集めることはできるが、身に付けた力を十分に生かして言語活動を進めているとは言えない現状である。

そこで、子ども自身が主体的に思考したり判断したり、それらを表現したりする力を育て、生きてはたらく国語の力を育成していかなければならないと考える。

以上のことから、説明的な文章において、身に付けたい力を明確にし、単元を貫く言語活動との関連を図りながら授業を展開することにより、個々の子どもの生きてはたらく国語の力を育てていきたいと考える。

### Ⅲ 研究の目標

説明的な文章の学習において、言語活動を充実させ生きてはたらく国語の力を育てるための指導の在り方を明らかにする。

### Ⅳ 研究の仮説

説明的な文章の学習において、身に付けたい力を明確にし、言語活動の充実を図った授業を行えば、生きてはたらく国語の力を育てることができるであろう。

### Ⅴ 研究に対する基本的な考え方

#### 1 めざす子どもの姿

- ① 情報を読み解き、自分の立場から情報を活用する子ども
- ② 相手や目的、場面に応じて自分の思いや願いを膨らませて自己表現する子ども
- ③ 自ら本に手を伸ばし、多くの文章や本に触れながら、学習を進める子ども

#### 2 研究主題について

##### (1) 「言語活動で培う」とは

基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培うこと。

##### (2) 「生きてはたらく国語の力」とは

実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本となる国語の能力。

- ① 理解する能力
- ② 表す能力
- ③ 基本の能力（漢字・語彙・文法）

#### 3 「身に付けたい力」のとらえ

国語科の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域における「指導事項」に示す内容を指導する際の具体的な能力目標ととらえる。よって、一つの指導事項に含まれる複数の内容の中から、単元の目標と子どもの実態から重点的に扱いたい内容を吟味し焦点化したものである。

### Ⅵ 研究の具体

#### 1 身に付けたい力を明確にした指導構想

##### (1) 身に付けたい力と言語活動の観点の設定

- ・単元を貫く言語活動の位置づけ
- ・身に付けたい力を身に付けるための具体的な観点の明確化

##### (2) 指導事項の系統化

- ・身に付けたい力の系統図の作成

#### 2 第2次（読解）の授業改善

##### (1) 第3次と結び付けた授業展開の工夫

##### (2) 交流の工夫

#### 3 言葉の力を向上させるための工夫

##### (1) 読書活動の充実

##### (2) 言語環境の整備

## VII 研究の実際

### 1 身につけたい力を明確にした指導構想

#### (1) 身に付けたい力と言語活動の観点の設定

#### 【1年生「どうやってみをまもるの」の実践を通して】

##### ○単元のねらい

- ◎語や文のまとまりに気を付けて書かれてある事柄ごとに正しく読むことができる。
- ◎本の文や文章、絵や写真などから、必要な情報を選んで読むことができる。

##### 【単元で言語活動を通して身に付けたい力】

○語や文のまとまりをとらえる力

##### 【言語活動の観点】「動物 お話クイズ」

- ①「問い」に対する「答え」の文型（文末表現）
- ②絵や写真と言葉や文章を結び付ける

##### ○単元を貫く言語活動の位置づけ

単元を貫いた言語活動 「動物 お話クイズ」

身につけたい力を身につけるための具体的な観点の明確化

#### 第1次…単元のねらいを知り単元の見通しを持つ。



教師の見本の提示

単元	ねらい	言語活動	観点
動物	動物のつくりや生活の仕方を知り、動物のつくりや生活の仕方に興味をもつ。	動物のつくりや生活の仕方について話し合ったり、書き合ったりする。	動物のつくりや生活の仕方について話し合ったり、書き合ったりする。
お話クイズ	動物のつくりや生活の仕方を知り、動物のつくりや生活の仕方に興味をもつ。	動物のつくりや生活の仕方について話し合ったり、書き合ったりする。	動物のつくりや生活の仕方について話し合ったり、書き合ったりする。

単元を見通した学習計画の提示

#### 第2次…単元のねらいを意識し、目的をもって読む。～言語活動の観点に沿って～

体の特长・敵からの身の守り方を読み取る。

①「問い」に対する「答え」の文型

②【なまえをおしえて】

【体のことをおしえて】

【どうやってみをまもるの】



②絵や写真と言葉や文章を結び付ける

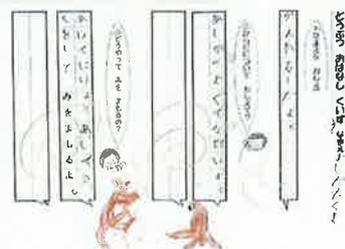


#### 第3次…第2次での学習を活かして自分で言語活動に取り組む。

～言語活動の観点に沿って～

自分で動物を選び、

「動物 お話クイズ」を作る。



(2) 指導事項の系統化

指導事項は2学年毎に設定されている。本校で使用している東京書籍の教科書学習材(説明的な文章)は年間4単元であるが、指導事項に照らして、その特徴や系統性を把握した上で適切な言語活動を設定する必要がある。そこで、身に付けたい力が「次の学年でどのように発展していくのか」「言語活動の観点との整合性は図られているか」など、多方向から分析し、単元構想に活用する。(系統図参照)

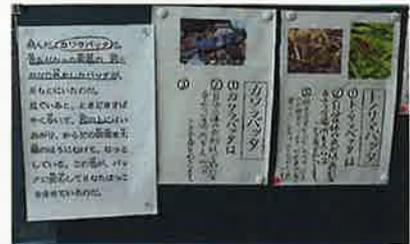
2 第2次(読解)の授業改善

(1) 第3次に結びつけた授業展開の工夫

①第2次の言語活動を第3次でも同じように行い、身に付けたい力の定着を図る。

【3年生「自然のかくし絵」の実践を通して】

- ・言語活動の様式を設定する。
- ・毎時間、この様式で生き物のかくれ方や体の特長をカードにまとめていく。
- ・同じかくれ方をする生き物を図鑑から見つけ、図鑑や本の中からも同じようにまとめることができた。

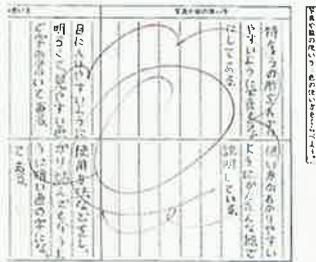


②言語活動で取り上げる項目ごとに第2次で取り上げて学習する。

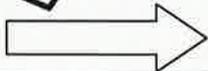
【4年生「広告と説明書を読み比べよう」の実践を通して】

- ・広告と説明書の書かれている事柄の順序やレイアウトの工夫

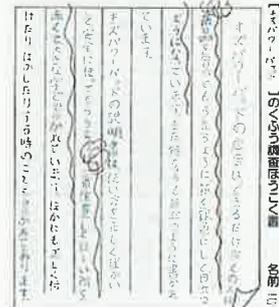
第2次の指導



第2次で学んだ写真や色の使い方の工夫について第3次で身近にある広告や説明書から見つけることができた。



第3次の言語活動

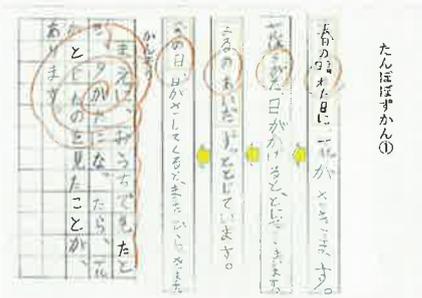


③第2次において、言語活動の観点に沿った読みが即活かされた言語活動

【2年生「たんぽぽ」の実践を通して】

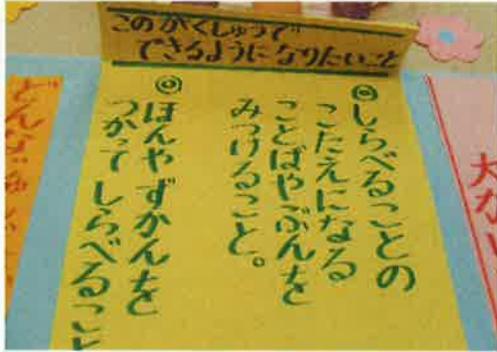
- ・時を表す言葉の確認。
- ・たんぽぽの様子の変化を挿絵と結び付けながら確認。
- ・自分の体験と結びつける。

たんぽぽの様子の変化を、時を表す言葉に気をつけて読み取ってまとめることができた。

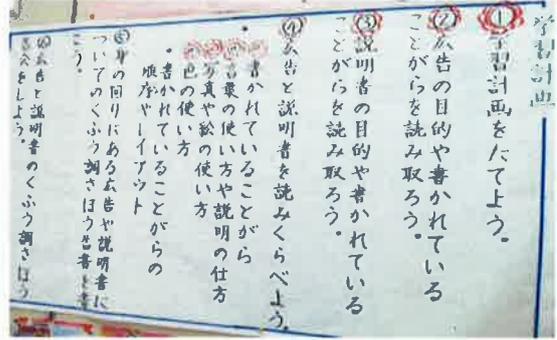


(2) 第3次につなぐための工夫 実践例

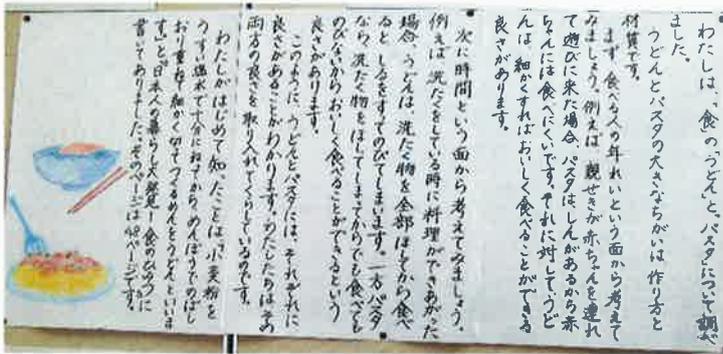
身に付けたい力の提示



学習計画の作成



言語活動の見本の提示



言語活動の観点の提示



交流の工夫



授業の「深める」際に、自分で考えたりまとめたりする。その後、「交流」の時間を設定する。『ペア学習』『グループ学習』『学級全体』など、交流の場を設ける。交流の方向性としては、協議や討論、交流後の発表の仕方など。

朝の会でのスピーチ



新聞のリードや見出し、写真から書き手の意図を捉える学習をし、「朝の会でのスピーチ」へと繋げた実践。

次の単元へ繋げた言語活動



投書の読み比べから読み手を説得させる意見文の書き方を学習し、次の単元の意見文の書き方へと繋げた実践。

### 3 言葉の力を向上させるための工夫

子どもたちは、日々様々な言語情報を取り入れ、また、自らも発信している。たくさんの情報の中から、自分に必要な情報を読み取り、相手や目的に応じた表現を選択していく力が必要である。その原点として、言葉の正しさや美しさに敏感な言語感覚を養うことは重要である。子どもたちの言葉の感性が磨かれていくように、豊かな読書環境と言語環境の整備に心がけている。

#### (1) 読書活動の充実

図書担当を中心に、読書意欲を喚起する取り組みを行う。また、言語活動に対応できるように、教科書教材に関連した図書の補充も計画的に行う。



委員会活動とも連動させ、活発な図書館利用を促す。

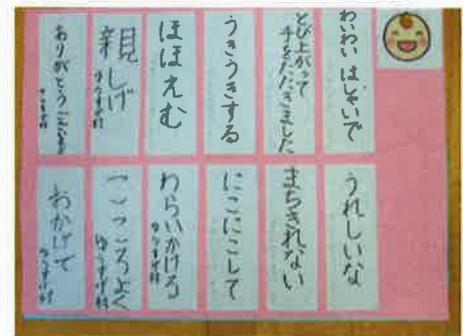
「ことばの広場」コーナーを設け、常に言葉の楽しさや美しさにふれられるようにする。

#### (2) 言語活動の整備

言語活動で取り組んだ作品を掲示し、手にとって友だちの文章を鑑賞できるようにする。



学年ごとに「気持ちを表す言葉」を集め、日記や作文等での活用できるように日記帳に貼っている。



# 第1学年 国語科学習指導案

日時 平成26年 11月20日(月) 5校時  
児童 第2学年 男14名 女11名 計25名  
指導者 教諭 今野幸枝

- 1 単元名 のりもののことをしらべよう  
教材名 「いろいろなふね」 (東京書籍1年下)

## 2 言語活動について

本単元では、学習指導要領解説国語編第1学年及び第2学年「C読むこと」言語活動例の「ウ事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと」を具体化した単元を貫く言語活動として「乗り物カルタ」作りを設定した。

実際には本来のカルタの形式とは異なり<クイズ>であるが、問題となる読み札とその答えになる絵札があることから「カルタ」とネーミングした。児童にとって「カルタ」は遊びのイメージが強い分、カルタ大会に向けて意欲的に学習を進めていくことができ、活動の見通しとして児童と実際に見学した「救急車」をカルタにして提示し、学習活動への期待を高めていくようにしたい。カルタ大会は学級内や参観日に保護者で行う予定であるが、その行い方については単なる遊びにならないよう工夫をしていきたい。

具体的には「乗り物カルタ」の読み札には役目とそのための工夫を、絵札にはその乗り物の名称と絵をかく。読み札がクイズとなり絵札がその答えになる。絵札は、絵が苦手な児童や乗り物の役目にあう構造・装備などを考慮して本からのコピーも認める。

今回の「乗り物カルタ」は、身に付けたい力をもとに、次のような観点を設定して作成させていく。

- ① 役目とそのための工夫(構造 装備)をとらえる読み
- ② 絵や写真と言葉や文を結びつける読み

【単元で言語活動を通して身につけたい力】 【言語活動の観点】「乗り物 カルタ」

- |               |                           |
|---------------|---------------------------|
| ○関係づけた読みの力    | ①役目とそのための工夫(構造 装備)をとらえる読み |
| ○大事な言葉を書き抜くこと | ②絵や写真と言葉や文を結びつける読み        |

3 本時の指導（5／10時）

(1) 目標 「フェリーボート」の役目のための工夫を、挿絵や写真、文や文章から読み取ることができる。

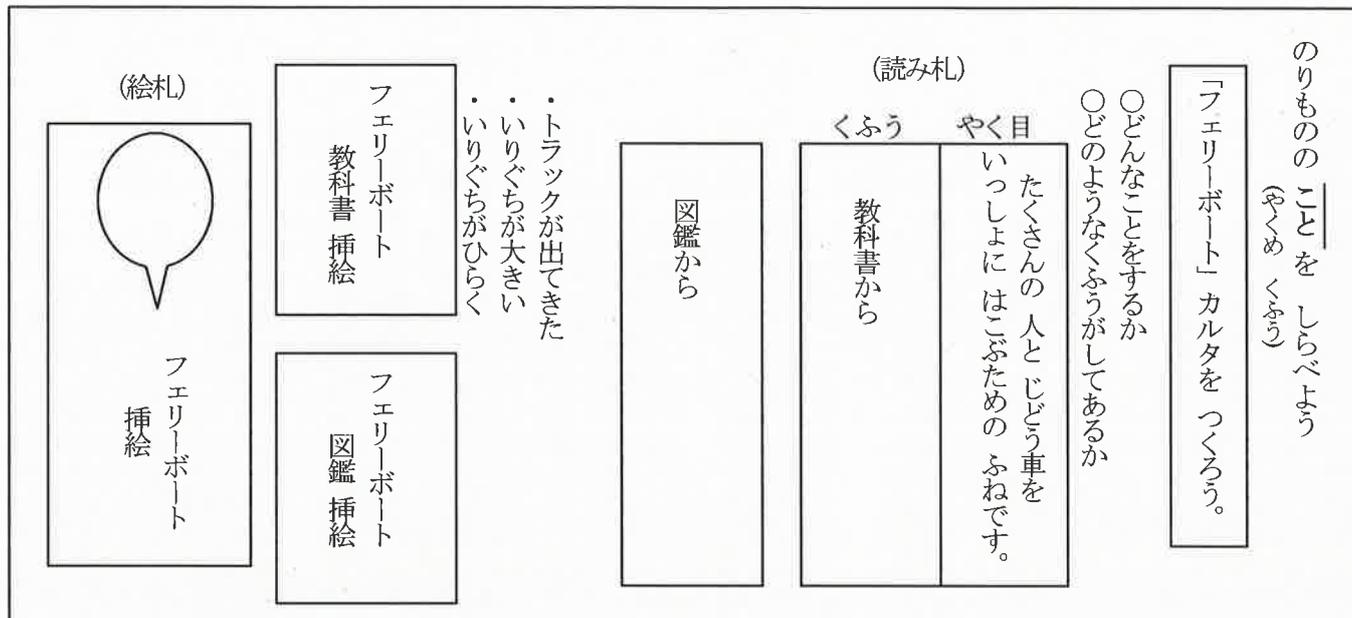
(2) 展開

	学習活動 ・ 学習内容	・ 指導上の留意点 ◇ 評価
つかむ 2分	1 学習課題の確認  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     なるほど! のりものカルタをつくろう。                      「フェリーボート」カルタ                 </div>	
見通す 5分	2 課題解決のための読みの視点の把握 ・カルタに書くことを確認する。  3 学習場面の確認 ・「フェリーボート」について書かれている段落を音読する。	・「乗り物カルタ」の構成要素<役目><工夫>を確認し、フェリーボートの何を読み取ればよいのかを把握させる。 ・前時で学習した文末表現や書かれてある順序に気をつけることを話す。  ・一斉読や指名読により、本時の学習場面の確認をさせる。
深める 35分	4 課題解決に向けての学び（教材文を読む） (1) 教材文を読む。 ・「フェリーボート」の挿絵から分かることを発表する。 ・工夫について書いてある文を線で囲む。  5 学び合い・深める (1) 図鑑を読む。 ・「フェリーボート」について書いてあるページを確認する。  ・写真や挿絵、文や文章から分かったことを話し合う。 ・工夫について読み取る。 (2) 「フェリーボート」カルタを作る。（工夫を書く。）  (3) できた「フェリーボート」カルタを全体で確かめ合う。	・挿絵からわかることを発表させ、それを文や言葉と照らし合わせる。 ◇「フェリーボート」の工夫について書いてある文を見つけている。（教科書）  ・3次につなげる活動として、教科書だけではなく図鑑からもフェリーボートの工夫を読み取る活動を行う。 ・目次の使い方を確認する。図鑑では「カーフェリー」で載っていることを知らせる。 ・ペアで同じ図鑑を見て、分かったことを確かめ合う。  ◇「フェリーボート」の工夫について見つけている。（カルタ） ・自分にとって特に<すごい><なるほど>の工夫について書くようにする。 ・教科書の文を書いたカルタと、図鑑の言葉や文から書いたカルタの両方を発表させる。 ・役目のためにいろいろな工夫があることを掴ませる。
まとめ 3分	6 学習したことのまとめ ・振り返りカードに自己評価する。  7 次時の学習内容の確認 ・学習計画を確認する。	・自分の<すごい><なるほど>を見つけたことを賞賛する。 ・本時の学習の価値付けをして、これからの学習に大切であることを感じ取らせる。  ・「漁船カルタ」「消防艇カルタ」作りを行うことを確かめる。

(3) 評価規準

A十分満足できる	B概ね満足できる	努力を要する児童への支援
<p>・「フェリーボート」の工夫について、図鑑に書かれていた文や言葉や、自分の言葉でまとめて、カルタを作ることができる。</p>	<p>・「フェリーボート」の工夫について、教科書のことばくきやくしつや車をまとめておくところがあります。&gt;をつかってカルタを作ることができる。</p>	<p>・文末表現「～は、～があります。」接続語「そのために」を使い、役目のための工夫（構造 装備）を読み取らせる。</p>

(4) 板書計画



4 成果(○)と課題(●)・・・授業公開分科会・授業者より

- 第3次につながる第2次の授業（本時）であった。
- 「役目（どんなことをするのか）」を児童が自分たちにわかる言葉として「仕事」という言葉に置き換えることで読み取る事柄をしっかりとつかむことができた。
- 評価において、A 図鑑について書かれてある、自分の言葉で B 教科書の文そのまま（つくり2つ）と設定し、A 評価の児童が4人。ほとんどの児童がB 評価を達成できた。評価規準を低く設定しないことでレベルの高い学習が行われていた。
- 音読がとてもよかった。これまでの積み重ねの賜物。
- わくわく・ドキドキ感がある授業だった。
- 読み札を書く際、手立ての工夫が必要だった。「～あります。」という語尾の指示があればよかった。
- 授業者の意図（思い）がしっかりと見て取れる単元計画・授業であった。しかし、一つ一つの単位時間（45分）の中で行うには、時間的無理があった。そこで何らかの工夫が必要であったと思う。

# 第2学年 国語科学習指導案

日時 平成26年11月20日(木) 6校時  
児童 第2学年 男7名 女12名 計19名  
指導者 教諭 山口 響

- 1 単元名 どうぶつのひみつをみんなでさぐる  
教材名 「ビーバーの大工事」 (東京書籍2年下)

## 2 言語活動について

本単元では、学習指導要領解説国語編第1学年及び第2学年「C読むこと」言語活動例の「ウ事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと」を具体化した単元を貫く言語活動として「生きものひみつカード」作りを設定した。

カードは、1枚の紙面であることから、2年生の児童にとって見やすく扱いやすい上、作ったものを綴ってカード集にすることも容易である。また、身に付けたい力を考慮したり、意図によって構成や様式を工夫したりしやすいという利点がある。

具体的なカードの構成は、「生き物の体の特徴」と「体の特徴を生かしてできること」、「生き物が何かを行う順序」である。また、読み取りを通して児童が見つけた生き物のひみつを自由に書ける欄をそれらの他に1つ設けておく。事柄の順序について書かれている文や文章は、動物からだけでは探しにくいと考え、昆虫や水棲生物まで調べる幅を広げさせる。できあがったカード集は、お互いに読み合い、成果を確かめ合う。また、カード集にして3年生に読んでもらい感想を聞くことで、学習の達成感を持たせたい。今回の「生きものひみつカード」は、身に付けたい力をもとに、次のような観点を設定してまとめさせていく。

- ① 生き物が何かを行う順序
- ② 生き物の体の特徴
- ③ 体の特徴を生かしてできること

### 【単元で言語活動を通して身に付けたい力】

- 事柄の順序に着目する力
- 大事な言葉を見つけまとめる力

### 【言語活動の観点】「生きものひみつカード」

- ① 生き物が何かを行う順序
- ② 生き物の体の特徴
- ③ 体の特徴を生かしてできること

5 本時の指導 (6 / 1 1 時)

(1) 目標 ビーバーがダムを作る様子を順序に沿って正しく読み取ることができる。

(2) 展開

	学 習 活 動	・指導上の留意点 ◇評価
つ か む 2 分	1 学習課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ビーバーがダムを作るようすを読もう。</div>	・前時の学習を想起させることで、学習への意欲を持たせる。
見 通 す 5 分	2 課題解決のための読みの視点の把握 ・本時では、ひみつ③「ダムの作り方」を作成することを確認する。  3 学習場面の確認 ・形式段落⑩～⑮を音読する。	・これまでの学習で、「特徴」、「特徴を生かしてできること」を読み取り、カードにまとめてきたことを確認する。  ・斉読や指名読により、本時の学習場面の確認をさせる。
深 め る 35 分	4 課題解決に向けての学び ・ダムづくりの手順となるように、カードの絵を並べ替える。  ・それぞれの絵は、ビーバーが何をしているところかをカードに書く。  5 学び合い・深める ・ペアでカードを読み合い、助言し合う。 ・カードに書いた文を発表する。 ・ビーバーが水の中にいられる時間や家族全員で協力してダムを作っていること、完成したダムについて読み取る。	・ダム作りの手順は、⑩段落に書かれていることを確認させる。 ・自分が並べ替えた順番が合っているかをペアで確認させる。 ・省略されている主語や指示語について確認する。 ・「～ます。」という文末で書かせることで、一文に複数の動作が含まれている文の確認をする。 ◇ダム作りの手順をとらえて、カードの絵を正しい順序に並べ替え、大事な言葉を落とさずに、ビーバーの行動を書いている。(カード)  ・「何を(で)」、「どうする」等に当たる大事な言葉が抜けていないかに気を付けて読み合いをさせる。
ま と め る 3 分	6 学習したことのまとめ ・振り返りカードに自己評価する。  7 次時の学習内容の確認 ・学習計画を確認する。	・本時の学習の価値づけをして、これからの学習に大切であることを感じ取らせる。  ・ビーバーがダムを作るわけを学習することを確かめる。

(3) 評価規準

A十分満足できる	B概ね満足できる	努力を要する児童への支援
<p>・ダム作りの手順をとらえて、カードの絵を正しい順序に並べ替えたり、大事な言葉を落とさずに、ビーバーの行動を書いたりすることを通して、文を正確に読むことの大切さに気付いている。</p>	<p>・ダム作りの手順をとらえて、カードの絵を正しい順序に並べ替え、大事な言葉を落とさずに、ビーバーの行動を書いている。</p>	<p>・「何を（で）」や「どうする」等に当たる言葉に着目させ、本文に書かれている文は、どの絵と対応するかを考えさせる。</p>

(4) 板書計画

夕方から夜中まで  
家族そろう

ビーバーが水の中にいる時間  
ふつう↓五分間  
長い時↓十五分間

できあがった  
ダムの写真

絵⑤  
どろでしっかつかためていきます。

絵④  
上から石でおもしをします。

絵③  
木の上に小えだをつみ上げます。

絵②  
木のどがった方を川のそこにさしこんで、ながれないようにします。

絵①  
木をくわえたまま、水の中へもぐっていきます。

ビーバーの大作 ながわ しろう  
ビーバーがダムを作るようすを読もう。

4 成果 (○) と課題 (●)・・・授業公開分科会・授業者より

- 指示・発問が明確で内容もわかりやすく、授業によいリズムを与えていた。また、子どもたちに迷いがなかった。
- 教師が示した言語活動のゴールに子どもたちが着かっていた。(大好きな動物についてカードを書く) という気持ちを、第1次で持たせ、その意欲の継続がなされていた。
- 並行読書で扱う本の選出方法、ブックリストなど、全職員で共有できるとよい。(系統図にも記載するとよい)

# 3 学年 国語科学習指導

日 時 平成26年 11月 20日 (木) 5校時  
児 童 第3学年 男19名 女10名 計29名  
指導者 教諭 伊藤ルミ子

- 1 単元名 はたらく犬について調べよう  
教材名 「もうどう犬の訓練」 (東京書籍3年下)

## 2 言語活動について

本単元では、学習指導要領解説国語編第3学年及び第4学年「C 読むこと」(2)内容②言語活動例(2)「必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読言語活動」を具体化した「はたらく犬 もの知りカードづくり」という言語活動を位置づけた。並行読書を行う中、自分が知りたいと思った働く犬の疑問に対する答えや必要な情報を、関連した本から集め要約し、カードにまとめていくものである。その際、知りたいことの答えを探しながら本を読んでいくことができる。また、集めた情報を要約してカードにまとめることにより、中心となる文や要約に必要な言葉を捉えることができ、要約する力がつくと考える。具体的には、「もの知りカード」に、調べた「はたらく犬」の名前を書き、「知りたいこと」として調べたことを書き、それに対する「答え」を要約文として書き表す。その際、調べた本の題名と著者も書くように指導していきたい。

今回の「はたらく犬 もの知りカード」は、身に付けたい力をもとに、次のような観点を設定してまとめていく。

- ①「知りたいこと」の「答え」になる言葉や文
- ②題名や繰り返されている言葉への着目
- ③目次や索引の利用

【単元で言語活動を通して身につけたい力】 【言語活動の観点】「はたらく犬もの知りカード」

- 必要な情報を選び、短くまとめながら読む力 ①「知りたいこと」の「答え」になる言葉や文
- 目次や索引を利用して本や図鑑を選んで読む力 ②題名や繰り返されている言葉への着目
- ③目次や索引の利用

3 本時の指導 (6/12時間)

(1) 目標 知りたいことに対して必要な情報を集め、大事な言葉や文をつないで要約することができる。

(2) 展開

	学 習 活 動	・指導上の留意点 ◇評価
つ か む 2 分	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を確認する。 もうどう犬になるためにできなくてはならないことは何だろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を振り返り、本時の課題への見通しを持たせる。</li> </ul>
見 通 す 5 分	3 学習場面の確認 ・訓練について書かれている場所を音読する。(⑤~⑫) 4 読みの視点を把握させる。 ・「要約の手じゅん」を使って要約の仕方を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小見出しから、どの部分に書かれているかを確認する。</li> <li>・どんな言葉が要約するときに必要なのかを確認する。「訓練」「できる」</li> </ul>
深 め る 3 0 分	5 課題解決に向けての学び (1) どんな訓練をしているのが写真からわかることを発表する。 (2) 写真とあう叙述を確認する。 (3) 「要約の手じゅん」を参考に、言葉を削ったり書き換えたりする。 6 学びあい・深める (1) 隣り同士で削った言葉、書き換えた言葉を発表しあい、その理由を伝え合う。 (2) 話し合ったことを全体で交流する。 (3) 自分が調べている犬の本には、今日の課題がどこに書かれているか見つけて付箋を貼る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人間の言うことにしたがう訓練」を全体で確認し、やり方を確認してから「安全にみちびく訓練」を一人学びで行っていく。</li> <li>・写真からわかることをとらえさせる。</li> <li>・出だしと結びの言葉を提示する。</li> <li>・繰り返し出てくる言葉を削ったり、指示語を言い換えたりできているか、「要約の手じゅん」をもとに話し合わせる。</li> <li>・130字以内にまとめる。</li> <li>◇知りたいことに対して必要な情報を集め、大事な言葉や文をつないで要約できている。(エ)</li> <li>・「交流の観点」を示し、その観点に沿ってペア交流を行う。</li> <li>①できなければならないことがはいつているか。</li> <li>②例ははぶいているか。</li> <li>③指示語はくわしくなっているか。</li> <li>・目次や索引を参考にし、働く犬ができなくてはならないことがどこに書かれてあるか見つけさせる。</li> </ul>
ま と め る	7 学習のまとめ ・今日学んだこと、わかったことを書く。 8 次時の学習内容の確認 ・学習計画を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかったこと・学んだことを振り返りカードに書き、伝え合う。</li> </ul>

(3) 評価規準

A 十分評価できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する児童への支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対して必要な情報を選び、大事な言葉を使いながら言葉や文を書き換えたり補ったりして要約できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対して必要な情報を集め、大事な言葉や文をつないで要約できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を手掛かりにどんなことをしているか考えさせる。</li> <li>・「教えられる」「教え込まれる」「できなければならぬ」などの言葉を手掛かりにさせる。</li> </ul>

(4) 板書計画

もっどう犬の訓練

吉原順平

課題

もっどう犬になるためにできなくてはならないことは何だろう。

○人間の言うことにしたがう訓練

写真①	ダウン（ふせる）
写真②	シット（すわれ）
写真③	ウエイト（待て）

・英語の命令の言葉をおぼえ、そのとおりにできるようにすること。

○人を安全にみちびく訓練

写真④	ジグザグ歩行
写真⑤	自転車を上ける
写真⑥	階段をおりる
写真⑦	横断歩道をわたる
写真⑧	車の前を通る

・あぶないもの前でとまる

・それをよけて進む

・使っている人にとつてきけんな命令にしがわらない

もっどう犬は、英語での命令の言葉を覚え、人間の言うことにしたがうことや、あぶないもの前で止まったりよけたりし安全にみちびくことができなければならない。

また、きけんな命令にはしたがわらないこともできなければならない。

4 成果 (○) と課題 (●)・・・授業公開分科会・授業者より

- 要約において字数を意識させることはゴールが見えてよい。
- 要約の手順が示されていたところがよかった。
- 交流で、「自分の意見を伝える」「相手の意見を聞いて自分の意見と比べる」ことを繰り返し経験することができた。
- 課題文の「できなくてはならないこと」と教材文の「訓練」という言葉のつながりが子どもたちに不明確だった。
- 考えた要約を、まとめの際に消してしまっている児童がいた。学習の足跡を残す工夫が必要。
- 「大事なところ」というのは、①筆者にとって②読み手にとっての二つがある。読み取ったことがどの文章につながるのかを図にし板書に示すと良い。

# 第4学年 国語科学習指導案

日時 平成26年 11月20日(木) 6校時  
児童 第4学年 男10名 女10名 計20名  
指導者 教諭 佐藤 麻穂

- 1 単元名 暮らしの中の世界について調べよう  
教材名 「暮らしの中の和と洋」 (東京書籍4年下)

## 2 言語活動について

本単元では、学習指導要領解説国語編第3学年及び第4学年「C読むこと」言語活動例(2)「イ記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること」を具体化し「暮らしの中の和と洋ブック作り」を設定した。

「暮らしの中の和と洋ブック」は、「和」と「洋」の良さを、対比の表現や引用などを使ってまとめていく。はじめに、教材文で、「和」と「洋」のちがいを対比して説明する文章構成を学び、「和」と「洋」それぞれの良さを読み取る力をつける。その後、教材文から児童の視野を広げ、その他の「和」と「洋」について調べようという意欲につなげていく。

「暮らしの中の和と洋ブック作り」では、複数の本や資料から、自分の課題に沿って必要な情報を読み取り、文章を引用したり要約したりすることが必要となってくる。また、「和」と「洋」それぞれについての良さを対比させながら文章にまとめていかなければならない。よって、身に付けたい力を向上させるためには最適な言語活動であると考え、次の観点でまとめさせていくことにした。

- ① 構成メモの作成
- ② 大事な言葉や接続語の使い方
- ③ 事典や図鑑などの本からの引用

【単元で言語活動を通して身につけたい力【言語活動の観点】「暮らしの中の和と洋ブック」

- |                            |                  |
|----------------------------|------------------|
| ○段落と段落の結びつきに気をつけ、対比しながら読む力 | ① 構成メモの作成        |
| ○必要な文章などを引用したり要約したりする      | ② 大事な言葉や接続語の使い方  |
|                            | ③ 事典や図鑑などの本からの引用 |

3 本時の指導 (6/11時)

(1) 目標 ・和室と洋室の使い方の良さを対比しながら読み取り、読み取ったことを文章の構成に気をつけながら「くらしの中の和と洋ブック」にまとめることができる。

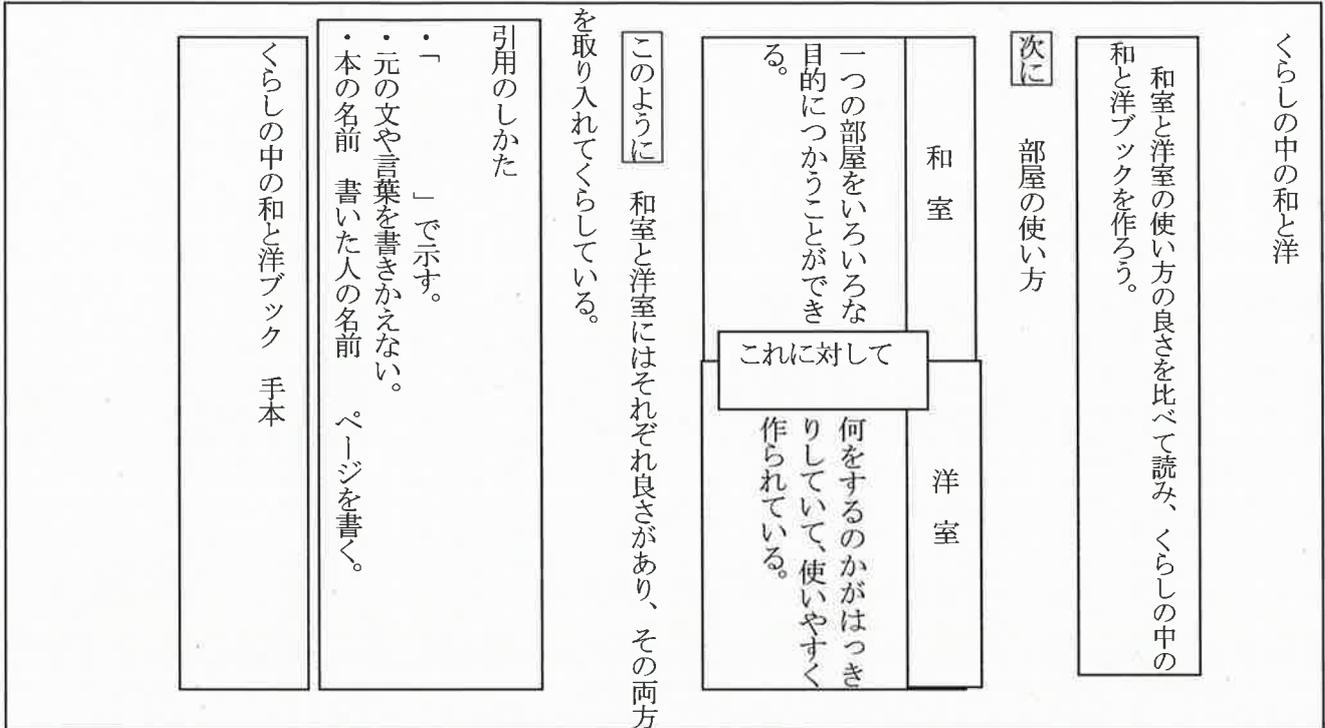
(2) 展開

	学習活動 ・ 学習内容	・ 指導上の留意点 ◇ 評価
つかむ 2分	1 学習課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">和室と洋室の使い方の良さを比べて読み、くらしの中の和と洋ブックを作ろう。</div>	・ 前時に和室と洋室の過ごし方の良さをまとめたことを想起させ、本時の課題につなげる。
見通す 5分	2 学習場面の確認 ・ 「和室と洋室の使い方」について書かれている段落を音読する。	・ 和室と洋室の使い方の良さを意識させて音読させ、本時の学習場面の確認をさせる。
深める 35分	3 課題解決に向けての学び (1) 和室と洋室の使い方の良さを見つける。 ・ 一人学びをし、それぞれの使い方の良さについてサイドラインをひく。 ・ 比べるときに使う言葉に着目させる。 ・ 全体で確認して、構成メモに記入する。 (2) 和室と洋室について、筆者がまとめているところを読み取り、構成メモに記入する。 (3) 構成メモを基にして、和室と洋室の使い方についての良さを文章にまとめ、「くらしの中の和と洋ブック」を完成させる。 ・ 接続語、対比する時の言葉を使って、それぞれの部屋の使い方の良さをまとめて書く。 ・ 資料からあらかじめ選んでおいた引用したい部分について「くらしの中の和と洋ブック」に記入する。	・ 部屋の使い方の良さという視点を与え、サイドラインをひくように確認する。  ◇和室と洋室の使い方の良さについて対比されている事柄に気をつけながら読んでいる。(教科書・ワークシート)  ・ 構成メモを基にして、自分の言葉で文章をまとめさせる。  ・ 初めて知って驚いたこと、読む人に知らせたいことなどが書かれている部分を引用させる。 ◇必要な情報を読み取り、まとめて表したり引用したりしている。(ワークシート)
まとめる 3分	4 学び合い・深める ・ 部屋の使い方の良さをまとめたことを発表する。(ペア→全体)  5 学習したことのまとめ ・ 学習の活動を振り返る。  6 次時の学習内容の確認	・ ペア学習を行い、自分の書いたものを音声表現させ、充実感を持たせる。  ・ 和室と洋室の良さを、つなぎ言葉や対比の言葉を使って書き直しているか確認させる。  ・ 振り返りカードに、わかったことや次時に生かしたいことなどを書き、交流し合う。 ・ 次時から、自分の課題に沿って「くらしの中の和と洋ブック」を作成していくことを確認する。

(3)評価規準

A十分満足できる	B概ね満足できる	努力を要する児童への支援
<p>・和室や洋室の使い方の良さについて、対比されている事柄に気をつけて読み取ったり、根拠を明確にして資料から必要な部分を引用したりしている。</p>	<p>・和室や洋室の使い方の良さについて、対比されている事柄に気をつけて読み取ったり、資料から必要な部分を引用したりしている。</p>	<p>・具体例以外の部分や、対比の言葉に着目させて、使い方の良さについて読み取らせる。</p>

(4)板書計画



4 成果 (○) と課題 (●)・・・授業分科会・授業者より

- 文章の構造を意識したワークシートを使用したことで、子どもたちがスムーズに活動できた。
- 単元に身につけたい力や既習事項の掲示が効果的だった。
- 和と洋の両方のとらえが弱かったので、まとめの段落の要約で子どもたちが悩んでしまった。小見出しをつける際に良さをしっかりと押さえることが必要だった。
- 要約する際に具体を省き、抽象に目を向けさせた。児童の思考を思うと具体を省くのではなく、具体と抽象を結び付け考えさせてさせていく必要があった。
- 比較、まとめ、引用と、内容が盛りだくさんの授業になってしまい、時間内に終わることができなかった。学習事項に軽重をつけ、一人学びの時間を確保しながら授業を進められると良かった。

# 第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成26年11月20日(木) 5校時  
児 童 第5学年 男7名 女10名 計17名  
指導者 教諭 柳瀬直哉

- 1 単元名 森林について興味をもったことを調べよう  
教材名 「森林のおくりもの」(東京書籍5年下)

## 2 言語活動について

本単元では、学習指導要領解説国語編第5学年及び第6学年「C読むこと」(2)内容②言語活動例(2)「イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること」を具体化した単元を貫く言語活動として「森林ブックガイドづくり」を設定した。

ブックガイドを書く際には、目的に応じて効果的な読み方をすることが必要であり、本単元第2次の教材文に書かれている内容を読み取る活動と深く関わる。また、ブックガイドを書くための調べ学習は、目的に応じて目次や索引、見出しなどを利用すればよいことを理解させる上で重要であると考える。

今回の「森林ブックガイドづくり」は、身に付けたい力をもとに、次のような観点を設定して作成する。

- ① 本の情報(書名、著者、出版社、発行年等)
- ② 詳しく知りたいこと(引用)
- ③ 詳しく知りたいことに対する答え(要約)

### 【単元で言語活動を通して身に付けたい力】

- 課題を解決するために効果的に読む力
- 題名や述べ方に注意して文章を読み、要旨をとらえる力

### 【言語活動の観点】「森林ブックガイド」

- ① 本の情報(書名、著者、出版社、発行年等)
- ② 詳しく知りたいこと(引用)
- ③ 詳しく知りたいことに対する答え(要約)

5 本時の指導 (4 / 11 時)

(1) 目標

- ・本論2を読み、「別のおくりもの」とは何かを読み取ることができる。

(2) 展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価
つかむ 3分	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本論2を読み、知りたいことカードの答えを書こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・㉔段落「本論2の導入」を読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの「おくりもの」を確認し、「別のおくりもの」があることをおさえる。</li> </ul>
見通す 5分	<p>2 学習場面の確認</p> <p>(1) 本論2を読み、問いかけの文を探す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いかけの文(述べ方の工夫)にサイドラインを引かせ、答えになる部分が続くことに気付かせる。</li> </ul>
深める 30分	<p>4 課題解決に向けての学び</p> <p>(1) 知りたいことカードの答えがどこに書いてあるか確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>川の水がなくならないのは、国土の三分の二をしめる大森林のおかげです。森林が、雨を少しずつ地下に送りこみ、やがて下流へはき出してくれるからです。</p> </div> <p>(2) 知りたいことカードの答えをまとめる。</p> <p>(3) 森林の「水を保つ働き」について確かめる。</p> <p>5 学びあい、深める</p> <p>(1) 残り2つの働きについて、確かめる。</p> <p>(2) 問いかけの文に対する答えが「森林」であることを確かめる。</p> <p>(3) 「別のおくりもの」とは何かをまとめる。</p> <p>(4) 本論1の「おくりもの」との違いについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時は、〇〇さん(〇〇先生)の「川の水がなぜなくならないか」ということの答えを書くことを確認する。</li> <li>・知りたいことカードの答えがどこに書いてあるか、問いかけの文や文章構成図をもとに考えさせる。(→目次、索引の利用、探し方の工夫につながる)</li> <li>・本論2「水を保つ働き」㉗～㉙段落を読ませる。</li> <li>・「森林が」どんな働きをしているかを考えさせ、大事な一文を選ばせる。</li> <li>・何が(森林が)、何を(雨を)、どのように(少しずつ)、どこに(地下に)、どうして(送り込んで)、どうなる(下流へはき出す)等の答えとして大切な言葉をおさえ、まとめる際に意識させる。</li> <li>・「なぜ～」という「問いかけ」に対する答えを理由ととらえ、「～からです。」という文末でまとめさせる。</li> <li>・図を用いて、水を保つ働きについて理解できるようにする。</li> </ul> <p>◇「問いかけ」と「答え」を読み取っている。(ノート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・残り2つの「別のおくりもの」は本文のどこに書いてあるか、問いかけの文や文章構成図で確認する。</li> <li>・答えがすべて森林であることをおさえる。</li> </ul> <p>◇「別のおくりもの」とは何か、読み取っている。(ノート・発言)</p>
まとめる 7分	<p>6 学習したことのまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習感想を発表する。</li> </ul> <p>7 次時の学習内容の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の感想だけでなく、森林についてもっと知りたくなったことについても話させる。</li> <li>・次時は、筆者の主張と文章全体の要旨をとらえる学習を行うことを伝える。</li> </ul>

(4) 具体の評価規準

A十分満足できる	B概ね満足できる	C努力を要する児童への支援
筆者の述べ方に気をつけ、森林全体の働きとしての「別のおくりもの」とは何かを読み取っている。	筆者の述べ方に気をつけながら「別のおくりもの」とは何かを読み取っている。	「問かけ」や「答え」の文に着目して内容を読み取らせる。

(5) 板書計画

森林のおくりもの

富山 和子

本論二を読み、知りたいことカードの答えを書こう。

別のおくりもの

問かけの文

川の水がなぜなくならないか

大森林のおかけ

森林の土はなぜ、雨に流されてなくならないか

森林のおかけ

どうしてお米を作り続けることができたのか

どうして土がなくなったり、土地がやせてしまったりしなかったのか

森林のおかけ

「川の水がなぜなくならないか」知りたい

川の水がなくならないのは、国土の三分の二をしめる大森林のおかげです。森林が、雨を少しずつ地下に送りこみ、やがて下流へはきだしてくれるからです。

水を保つ働き

山くずれと水害から平野を守る働き

土と養分をおぎなう働き

別のおくりものとは・・・

水、土、養分

木材としてのほたらきではなく、森林そのものとしての働き

4 成果 (○) と課題 (●)

- 1枚で書き表すワークシートが効果的だった。
- 子どもたちにつけたい力が掲示され、これまでの学習の様子がすぐにわかる掲示の工夫がされていた。
- 「問い」を押さえて「答えをまとめる」という流れで授業を行うことで「ブックガイド作り」につなげることができた。
- 目次や索引の活用の仕方を交流させることで、資料から知りたいことを効率的に探し出せるようになった。
- 「和と洋」で調べたいものが子どもたちからたくさん集まった。しかし、情報が見つからなかったり「よさ」をとらえることが難しかったりした。
- 「まとめ」の際、『両方のよさをとらえて～』という文を子どもたちがどのくらいとらえていたのだろう。小見出しをつける際の押さえが甘かった。

# 第6学年 国語科学習指導案

日時 平成26年11月20日(木) 6校時  
児童 第6学年 男10名 女16名 計26名  
指導者 教諭 大坂佳世

- 1 単元名 「持続可能な社会」への取り組みについて調べよう  
教材名 「未来に生かす自然のエネルギー」 (東京書籍6年下)

## 2 言語活動について

本単元では、学習指導要領解説国語編第5学年及び第6学年「C読むこと」言語活動例の「自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。」を具現化した単元を貫く言語活動として、「住田町紹介プロジェクト」を設定した。住田町は林業の町であり、児童にとってペレットストーブは馴染み深い。またソーラーパネルも校舎や校庭に設置されている。そこで住田町における「持続可能な社会」実現への取り組みをリーフレットにまとめさせる。資料の示し方や具体例の挙げ方に注意して筆者の意見をまとめたり、複数の資料や情報を取捨選択し適切に活用したりする力を付けるために、リーフレットは適切であると考えた。

具体的には、第2次で学習した「現状(具体的な取り組み)」「課題」「解決策」という筆者の文章構成を生かして、調べた事をリーフレットにまとめさせる。その際、図やグラフ、写真などを効果的に取り入れられるよう指導していく。また、筆者の意見と関連づけながら自分の考えを書かせる。

今回の「住田町紹介プロジェクト」は、身に付けたい力をもとに、次のような観点を設定してまとめさせていく。

- ①筆者の論の展開
- ②資料や具体例の効果

- |                                     |                               |
|-------------------------------------|-------------------------------|
| <b>【単元で言語活動を通して身に付けたい力】</b>         | <b>【言語活動の観点】「住田町紹介プロジェクト」</b> |
| ○資料の示し方や具体例の挙げ方に注意して<br>筆者の意見を読み取る力 | ①筆者の論の展開                      |
| ○複数の資料や情報を適切に活用する力                  | ②資料や具体例の効果                    |

5 本時の指導（4／12時）

(1) 目標 資料や図の示し方の効果や、論じる上での文章構成を理解し、まとめている。

(2) 展開

	学 習 活 動	・指導上の留意点・ ◇評価
つ か む 3 分	1 前時の学習の想起  2 学習課題の確認 「再生可能エネルギー源」についての資料や 具体例の示し方の工夫を読み取ろう。	・本論1の構成と資料の示し方について確認する。
見 通 す 10 分	3 学習場面の確認 ・本論2を音読する。  4 課題解決のための読みの視点の把握 ・本論2の構成と内容を確認する。	・本論2は、①現状②具体的な取り組み③課題④解決策という構成であり、本論1とよく似ていることを確認する。
深 め る  25 分	5 課題解決に向けての学び (1) 図を用いた筆者の意図に付いて考える。 ・図④と15段落の叙述とを結び付ける。 ・図④の効果について考える。 ・図⑤と17段落の叙述とを結び付ける。 ・図⑤の効果について考える。  (2) ウインド・ファームの具体例についてとらえる。 ・文章でも具体例を用いていることをとらえる。  6 学び合い・深める (1) 風力発電に関わる別の資料を読み取り、資料から分かることをまとめる。 ・図に題名を付ける。 ・図から分かることをまとめる。 (2) 読み手を説得するための資料や具体例の効果についてまとめる。	・図④、⑤が文章のどの部分を詳しくしているのか読み取らせる。 ・図④、⑤は筆者の説明を裏付けていることに気付かせる。  ・具体例を用いることで、風力発電のよさに現実味を持たせていることをとらえさせる。 ・世界の風力発電から日本の風力発電へと、結論が近付くにつれ身近な内容を挙げていることに気付かせる。  ・資料や具体例があることによって、筆者の意見が説得力を増すことに気付かせる。 ◇資料や図の示し方の効果や、論じる上での文章構成を理解し、まとめることができる。 (ノート)
ま と め る  7 分	7 学習の振り返り ・感想を書き、発表する。  8 次時の内容を確認する。	・次時は、課題と解決策を読み取り、筆者の意見に対する自分の考えを書く学習を確認する。

(3) 評価規準

A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する児童への支援
・資料や図の示し方の効果や、論じる上での文章構成を理解し、複数の資料と比較しながらまとめることができる。	・資料や図の示し方の効果や、論じる上での文章構成を理解し、まとめることができる。	・友達の考えを聞きながら文章構成をとらえさせ、資料や図と文章の対応ができるようにする。

(4) 板書計画

○資料や具体例の効果

- ・グラフや地図があることで、文章だけより分かりやすい。
- ・折れ線グラフや地図は筆者の文章を裏付ける。
- ・筆者の意見に説得力が増す。

図⑥は、釜石広域ウインドファームです。大型の風車が広い牧場の中に建っています。

釜石広域ウインドファームの資料

- ・風車が多い
- ・山に建っている
- ・五十メートルくらいある
- ・風が強そう

○図や具体例から分かること・効果

「再生可能エネルギー源」についての資料や具体例の示し方の工夫を読み取ろう。

未来に生かす自然のエネルギー  
牛山 泉

図⑤

⑱段落 「ウインド・ファーム」 具体例

⑰段落  
現在、日本の風車は、北海道や東北地方の日本海側の沿岸に多く建てられている。  
・地図は場所が一目で分かる。

図④

⑮段落  
一九九〇年代後半以降、増加のペースが急激に速くなっている。  
・折れ線グラフは急激な変化をとらえやすい。

4 成果 (○) と課題 (●)・・・授業分科会・授業者より

- 資料の読み取りを国語だけではなく、全教科に通じるものとして扱うことができた。
- 身近にある釜石のウインドファームを取り入れたことで、児童の意欲を引き出すことができた。
- 子どもたちが自分の言葉で発表し学びあうことができていた。
- 効果を捕らえさせるとするのは難しい。自分の主張をするために、どの図や資料を使うのが効果的なのか考えることが大事である。
- 様々なウインドファームの写真を貼って効果的なものを選ぶなど、子どもたちが自ら活動する場面作っていくことも大切である。
- 第3次で住田町の取り組みについてまとめる前に、教科書の風力発電を用いてリーフレット作りをするなどのワンステップ入れると、スムーズに入ることができたと思う。

## IX 成果と課題（指導主事からの助言を含む）

### 身に付けたい力を明確にした指導構想に関わって

- ・系統図の作成によって、縦・横の見通しが持てた。
- ・中学校も意識して9年間の見通しを持ち、指導を行っていくとよい。文学的な文章の系統図もあるとよい。
- ・系統図は共有し、引き継いでいく。職員全員で共通理解ができる。他教科への広がり等も付け足すとレベルアップする。

### 第2次（読解）の授業改善に関わって

- ・自作したものを使って授業に取り組むことで、教材間が深まってくる。
- ・「読む力」を図るために「書く活動」ということを、指導者が正確に理解していることが必要。3領域はそれぞれ関連性がある。
- ・国語のレディネステスト・補充が難しい。

そのため、児童のあいまいなところを教師側で押さえずに単元をスタートしてしまう。このことが国語科の課題でもある。

→だからこそ、「付けたい力」が大切になってくる。

縦軸に「指導事項」横軸に「単元」を並べて年間の見通しを立て、授業をやっていくうえで修正をかけながら進めていく。国語科でも「系統化」というものを意識して欲しい。世田米小学校の系統図を各校でたたき台にして使ってほしい。

- ・「学び合い」は支え合いにつながる。何をねらうか明確にさせることが大事。

- ・自分の考えをしっかり持つ
- ・他の考えを聞き、視野を広げる
- ・考えを練り上げる
- ・更に思考する
- ・協議し解決し新しい考えを生む

→授業の根底は信頼感・安心感・所属感

中学校の学習にも関連していく。他教科にも結びつける。

### その他

- ・教材文を生かした子どもの力を高める言語活動を今後も行ってほしい。
- ・2年くりの目標・指導事項になっているので1回の指導ではその力をつけるのは難しい。段階的につけていくことが大切である。
- ・今の国語に求められているものに合った授業を行うことができた。
- ・読むことで身につけた力を、書くことや話すこと、他教科へと広げて行ってほしい。
- ・振り返りを大切にしてほしい。

「内容の理解」「形式の理解」「論の展開」「自分に身についた力」など積み重ねていってあげるのが第3次につながる。直接第3次につながる振り返りにするとよくなる。

- ・国語で何を育てるか。「態度」を育てること。目で聞いて、目で伝える子ども達を育てることが大事→目で伝えられる集団